

1. 恵泉女学園大学の教育	1-2
2. 大学の3つのポリシーと方針	1-3
3. 恵泉女学園の歩み	1-12
4. 恵泉女学園大学の組織	1-13
5. 専任教員一覧	1-14
6. 非常勤教員一覧	1-16
7. 恵泉会	1-18
8. 同窓会	1-19

1. 恵泉女学園大学の教育

恵泉女学園は、キリスト教信仰を教育の基盤として、真理を謙虚に探究し、自然を慈しみ、愛と奉仕の精神をもって世界の平和に貢献することのできる、自立した女性の育成を図ることを目的として、河井道によって1929年に創設された。

恵泉女学園大学は、創立者河井道の精神と教育理念を現代に生かす大学である。すなわち、真理の探究と人間性の育成を指針として、国際理解と園芸を重視し、世界に向かって心を開くと共に、生命あるものを培い育てる中で生命の尊厳を知るといふ、明確な方向性をもった教育を行うことこそ、本学の目指すところである。



— 校 章 —

Consulting with a scholar of the classics, I named the school Keisen Jogakuen, using the ideographs “Kei(blessings),” “sen(fountain),” “jo(girl),” “gaku(learning),” and “en (garden)” …a “Fountain-of-blessings Girls’ Learning- garden.” No one can make a spring; it is a gift from the Creator. So with my school; it shall be a gift of blessings bubbling up from the Source of Life.

— From My Lantern —

2. 大学の3つのポリシーと方針

学園の教育理念

恵泉女学園は、キリスト教信仰に基づき、神と人ともに仕え、自然を慈しみ、世界に心を開き、平和の実現のために貢献できる女性を育成する。

大学の教育理念

恵泉女学園大学では、本学園の教育理念を礎にして、豊かな教養(リベラルアーツ)教育を行っています。大学の教育理念は以下の通りです。

- ・自己を尊重し、自己を愛するように他者を尊重する人を育てる
- ・世界を知り、偏見や差別に立ち向かう力を育む
- ・自然を慈しみ、いのちを尊ぶ人を育てる

私たちは、教養こそが人を自由にし、自立させるものと信じています。

本学はこのような理念に沿って、ひとりひとりの学生が自立した人生を切り拓いていけるように努めています。

大学の目的及び使命

本学は福音主義キリスト教の信仰に基づいて、女子に高等の教育を授け、専門の学術を教授研究し、もって真理と平和を愛し、国際的視野に立って文化の進展と社会の福祉に貢献する有為な女性を育成することを目的とする。

大学の3つのポリシー

◆ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

恵泉女学園大学は、本学に所定の期間在籍し本学の教育目標に基づく所定の単位を修め、次のような資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士の学位を授与します。

1. 国内外の社会・文化を理解する基礎的知識と見識を有し、論理的・批判的に考え、日本語で表現・発信する力を身につけている。
2. グローバル社会に通用する第二言語を習得し、多文化・異文化に開かれた豊かな国際感覚と共感性をもって、平和な社会の実現に積極的に寄与しようとする姿勢を身につけている。
3. 土に触れ、いのちを育む生活園芸を通じて、多様ないのちとの共生と循環を体感し、多様な人々と偏見なく繋がり共生・協働しようとする態度と、地球環境に配慮する態度・力を身につけている。
4. 国内外での実践的な学修経験を積み、社会の課題に気づき、解決のためのシナリオを描く自律的な思考力と、粘り強い姿勢をもって自ら行動し、学び続ける力を身につけている。

◆カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

恵泉女学園大学は、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を持った人材を養成するために、以下の方針に基づいて教育課程(カリキュラム)を編成・実施しています。

1. 恵泉教育の3つの礎「聖書」「園芸」「国際」に基づく人間性の涵養と幅広い教養および基本的なアカデミックスキルの修得のため、すべての学生が履修する全学必修の「共通科目」として、「恵泉基礎」「共通教養」「共通生涯就業力」「共通語学」の4つの科目群を設置する。

- ・「恵泉基礎」には、3つの礎を反映した科目と初年次演習(ゼミ)科目を置き、本学の教育理念を学び、多種多様な社会で他者とともに生きるための人間力を滋養しつつ、本学の学びへの適応を図り、基本的学習スキルの修得と、将来に向けての学びの計画づくりに取り組む初年次教育を行う。
 - ・「共通教養」には、3つの教育理念を人文科学、社会科学、自然科学の分野に応用発展させた「キリスト教と考え方」「園芸と生活」「平和と社会」の3つの領域からなる教養基礎科目群を設ける。
 - ・「共通生涯就業力」では、各学年各セメスターにおいて、女性のキャリア形成を自分事としてとらえられるよう、大学での学びの意義、経済や産業など自分たちが生きていく社会の多様な側面を知りながら、ゼミ科目と連動して自分自身の成長段階を確認していく「生涯就業力STEP科目」を中心に据える。さらに、社会における生涯就業力の基礎的技能となる「日本語能力」「ITスキル」、また技能や知識の幅を広げ向上させるための科目を設置する。
 - ・「共通語学」では、実践的運用能力を身につける英語科目とともに、他文化・異文化に触れ、世界に開かれた広い視野を養うため、英語以外の第2言語科目を置く。英語教育においては、学生一人ひとりの学習進度に応じたコミュニケーション英語力の育成をはかる。各語学科目は、専門教育、学外体験学習プログラムとの連関を図る。
2. 各学科専門分野への導入基礎として、学科の枠を超えて初年次より履修可能な「学部専門導入科目」を設置する。
 3. 専門的な方法論と知識の修得によって課題発見・改善解決能力を培い、生涯にわたる自律学修能力を獲得するための専門基礎に重点を置いた「学科専門科目」を設置する。
 4. 現代人として広く世界を理解し、積極的に社会に関わるための視野を広げるよう、他学科にも学科専門科目を開放する。
 5. 所属する学科での確かな専門基礎の学びを基盤に、自らの関心をさらに他分野・他領域につなぎ広げ、領域横断的・学際的な視野と知識でより主体的・創造的な卒業研究を可能とするための教育システムとして、全学専門教育課程に「多文化オープンコース」を設置する。これに伴い、3年進級時に、所属の学部・学科の枠を超えて他学部他学科の教員のゼミ(多文化オープンゼミ)を選択することができる。
 6. 社会生活において必須となる汎用的な能力を育成するために、初年次から卒業年次までの8セメスターすべてに少人数制による演習(ゼミ)を設置する。
 7. フィールドスタディー(FS)、コミュニティ・サービス・ラーニング(CSL)、海外語学研修、インターンシップ等、学外での実体験・実践学習を通じて社会の課題を自分のものとして捉え、考え、発信・行動するための国内外における学外体験学習プログラムを正課の「全学専門特殊科目」として設ける。
 8. 学内・学外ボランティア活動等の課外活動を、社会と実践活動を通してつながる貴重な実体験学習の機会と位置づけ、積極的な参加を奨励する。
 9. 本学の学びの各学科カリキュラムの特徴を反映している「日本語教員養成課程(主専攻)」「園芸療法士」「子育て支援員」については、すべての学部学科学生が取得できる資格とする。
 10. 本学での学修が段階的に積み重ねられていくよう3年次進級制度を設ける。
 11. 身につけた知識や技能を統合し、問題に向けた解決方法を粘り強く探究するとともに、新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を培うために、4年次での卒業論文・卒業制作を全学必修とし、一人ひとりに丁寧な指導を行う。

◆アドミッションポリシー(入学者受入れの方針)

恵泉女学園大学は、本学の教育理念に共感し、本学での学修に高い意欲と目的意識を持つ、次のような学生を、年齢・国籍を問わず幅広く求めます。

- ・ 高等学校での教育課程の教科・科目の修得による基礎的内容を偏りなく幅広く修得している。
- ・ 高等学校での学修を通じて、聴く・話す・読む・書く の基礎的な言語コミュニケーション能力を身につけ、他者の声に耳を傾けるとともに、自らの意見を積極的に発信する意志をもっている。
- ・ 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用し、発展させる意欲をもっている。
- ・ 高等学校での正課科目の学習のほか、課外活動にも力を注ぐ意欲をもち、自然や社会に対して関心をもち、さまざまな人と接しながら豊かな体験を積むことを志向している。

上記のような学習姿勢や能力・志向性を持った学生に入学していただくため、恵泉女学園大学では、次の方針に基づいて入学試験を実施します。

1. 何よりも「恵泉で学びたい」という気持ちを大切にします。本学では入学時に決めた学科の枠に縛られない幅広い学際的な学修を奨励し、入学後の日々の勉学を通して、一人ひとりが自らの学びを構成し、自分にふさわしいキャリアを見出していけるよう、3年進級時に専門を決めるコース制度を採用しています。よって、何を専門的に学びたいかまだ分からない、関心ある分野が多岐にわたっていて絞りきれない、実体験学習を通じて自分の関心分野を探してみたいという学生も歓迎します。
2. 一人ひとりの受験生に丁寧に向き合います。そのために皆さんの能力・特性が発揮できるようさまざまな入試方法を用意します。(各入試の評価方法・評価基準の詳細については募集要項を参照してください。)
3. AO入試や推薦入試などで早期に本学への入学が決まった方を対象に、高等学校での学習から大学での学修へのスムーズな移行を図れるよう「入学前ステップアップ授業」を実施します。

各学部の3つのポリシー

◆人文学部

人文学部ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

恵泉女学園大学人文学部は、本学部に所定の期間在籍し本学部の教育目標に基づく所定の単位を修め、次のような資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士(人文学)の学位を授与します。

1. 国内外の歴史、社会、文化を理解する基礎的知識と見識を有し、論理的・批判的に考え、日本語であるいは英語で表現・発信する力を身につけている。
2. グローバル社会に通用する第二言語を習得し、多文化・異文化に開かれた豊かな国際感覚と共感力をもって、自国の文化と外国の文化の共通点と異なる点を正しく理解する力を身につけている。
3. 国内外での実践的な学修経験を積むことにより、社会の課題に気づき解決のための思考能力と解決能力を身につけている。

人文学部カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 恵泉女学園大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、恵泉教育の3つの礎である「聖書」「園芸」「国際」を人文学部教育の中心に置きながら、人文学部に特徴的に見られる歴史、文化、言語への理解力を身につけるための教育課程を置く。

- 日本語・日本文化学科は日本語、日本文学・文芸創作、日本文化史の3つの領域にわたる基礎的な知識と専門的知識を身につける教育課程をもつ。
英語コミュニケーション学科は英語、および英語圏の言語芸術・文化・社会などを基礎的にも専門的にも学ぶことができる教育課程をもつ。
- 2017年度より、各学部と各学科間の壁を超えた学びの仕組みを整備し、3年次から自学科のゼミだけでなく他学部他学科の教員のゼミを選択可能な教育課程とする。

人文学部アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

恵泉女学園大学人文学部は、次のような目的意識や意欲を持った学生を求めます。

- 言語を軸に文化圏をとらえ、文学・歴史・文化・芸術に広く関心を持っている学生
- 日本語および英語の基礎的な知識を習得している学生
- 視野を広げることに積極的で、主体的に学ぶ意欲を持つ学生

入学者選抜においては、受験生が身につけた能力を幅広く評価するために、以下のような入学試験を行っている。

「一般入試」においては、本学独自の入学試験によって、高等学校等までに身につけた基礎的な学力、思考力、表現力を評価する。

「大学入学共通テスト利用入試」においては、大学入学共通テストの成績によって基礎的な学力を評価し、可否を判定する。

「学校推薦型選抜(指定校推薦)」においては、推薦指定校としている高等学校に大学から推薦の条件を示し、面接試験を通して本学で学ぶ意欲があることを確認している。

「総合型選抜(AO)」においては、模擬授業とレポートを通して基礎的な学習能力を評価するとともに、面接試験によって人物と学習意欲を判断し、可否を判定している。

上記の他「社会人入試」「編入学入試」「留学生入試」において、小論文と面接を通して基礎的な学習能力と学習意欲を評価し、可否の判定を行う。

◆人間社会学部

人間社会学部ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

恵泉女学園人間社会学部は、本学に所定の期間在籍し本学部の教育目標に基づく所定の単位を修め、次のような資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士(人間社会学)の学位を授与します。

- 人間が社会的存在であることをより強く意識し、国内外における諸問題を認識し、これに対し強い関心をもつと同時に、解決策を考え実践する力を身につけている。
- 国際社会学科においては、現代がグローバル社会であるという前提に立ち、地球的見地に立って平和、人権、そして戦争回避の道を探る力を身につける。社会園芸学科においては、人間が対自然の中の存在であること、また同時に人間関係の中にあること、つまり人間とは「関係存在」であることの意味を徹底的に学ぶ。それは園芸、園芸学の実践的学びと心理学の実践的学びの中で身につけている。
- さらにどちらの学科も、国内外での実践的な学修経験を積むことにより、社会の課題に気づき解決のための思考能力と解決能力を身につけている。

人間社会学部カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

- 恵泉女学園大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、恵泉教育の3つの礎である「聖書」「園芸」「国際」を人間社会学部の中心に置きながら、人間社会学部に特徴的に見られる歴史、文化、園芸学、心理学への理解力を身につけるための教育課程を置く。

2. 国際社会学科は国際関係の諸問題および地域研究に力を入れ、グローバル社会において今何を考え、何をなすべきかを積極的に考え、平和、人権、戦争回避のためになすべき課題に向き合うための教育課程をもつ。社会園芸学科は、園芸学と心理学との融合を目指し、自然の中で生きる意味と人間関係の中で生きる意味の二つを同時に考え、「関係存在」の意味の理解を、実践的訓練教育を通して実現する教育課程をもつ。
3. 2017年度より、各学部と各学科間の壁を超えた学びの仕組みを整備し、3年次から自学科のゼミだけでなく他学部他学科の教員のゼミを選択可能な教育課程とする。

人間社会学部アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

恵泉女学園大学人間社会学部は、次のような目的意識や意欲を持った学生を求めます。

1. 人間が個として存在していることの意味よりも、対社会的存在であること、相手との関係存在であること、「共感」することを忘れないことを第一とする学生
2. 物事の歴史的・文化的背景を調べる基礎的な力を持ち、実践的訓練を重要視し、主体的に学ぶ意欲のある学生
3. 異文化への関心を広げ、自然との共存、また他者との共存について真剣に追求したいと考えている学生

入学者選抜においては、受験生が身につけた能力を幅広く評価するために、以下のような入学試験を行っている。

「一般入試」においては、本学独自の入学試験によって、高等学校等までに身につけた基礎的な学力、思考力、表現力を評価する。

「大学入学共通テスト利用入試」においては、大学入学共通テストの成績によって基礎的な学力を評価し、可否を判定する。

「学校推薦型選抜(指定校推薦)」においては、推薦指定校としている高等学校に大学から推薦の条件を示し、面接試験を通して本学で学ぶ意欲があることを確認している。

「総合型選抜(AO)」においては、模擬授業とレポートを通して基礎的な学習能力を評価するとともに、面接試験によって人物と学習意欲を判断し、可否を判定している。

上記の他「社会人入試」「編入学入試」「留学生入試」において、小論文と面接を通して基礎的な学習能力と学習意欲を評価し、可否の判定を行う。

各学科の3つのポリシー

◆日本語日本文学学科

ディプロマ・ポリシー

1. 日本語・日本文学・日本文化史の3つの領域について幅広い知識を持つとともに、各自が選択した専門分野について専門的な知識と情報探索および収集能力を持ち、実践的な研究を行う力がある。
2. 外国語については、日本文化を海外に発信するために必要な語学力を習得しており、日本文化についてわかりやすく説明することができる。日本語については、古典から近現代に至る幅広い文献を批判的に読解する力を持ち、それらを踏まえたうえで、自分の意見を口頭および文章によって適切に表現することができる日本語運用能力を持つ。
3. それぞれの専門分野においては、自ら進んで課題を発見し、適切な方法を用いてそれを解決するための道筋を構想することができ、最終的に妥当性のある結論に至る論文を作成することができる。

4. 創作分野においては、作品を企画・構想し、教員の指導のもとに制作し、相互に批評し合うことによって質を高め、最終的に完成させることができる。すなわち、創作活動を客観的に評価する態度を身につけることによって、自らを相対化したうえで創作活動に取り組む能力を持つ。
5. 国語科教職課程および日本語教員養成課程においては、教員として指導するための必要かつ十分な知識と教授法を身につけるとともに、実践的な指導を行う能力を持ち、卒業後すぐに教壇に立つことができる。

カリキュラム・ポリシー

1. 主として1・2年次においては、日本語、日本文学・文芸創作、日本文化史の3つの領域にわたる基礎的な知識を身につけるための幅広い教養教育科目を配置する。また、3年次以降には、専門的な深い知識とさまざまな研究方法の修得を元にした、研究能力の養成を中心とした専門教育を行う。
2. 日本の文化を世界に発信することを目標として、日本語および外国語、ITスキルの基礎的な能力を身につける。
3. 各学年に配当した少人数の演習科目(ゼミ)を通して、自ら進んで課題を発見し研究する態度と、プレゼンテーションの技法やレポート・論文執筆などの技術を学ぶ。質疑応答に十分な時間をかけることで、自己表現の能力を磨き、また、学外授業やゼミ旅行などを通して、体験的な学びを行う。これらの学びを通して3年次においては、自ら研究課題を選択し、4年次にはこれをもとに適切な方法によって研究を進め、指導教員の個別指導の下にその成果を卒業論文としてまとめる。
4. 学生が自ら創作する能力を身につけるために、「文芸創作」や「マンガアニメ文化論」等の科目を設置する。また、「文芸創作」「美術史」のゼミにおいても創作活動を専門的に行うための技術と方法を学ぶ。
5. 国語科教職課程および日本語教員養成課程においては、少人数のクラスにおいて模擬授業を繰り返し、知識に偏らない実践的な指導力を養成する。

アドミッション・ポリシー

1. 日本語と日本文学、日本文化について幅広い興味と学習意欲を持つこと。
2. 日本の社会や文化に対して自分なりの意見を持ち、発言することができること。
3. 創作や論文などを通じた自己表現に強い意欲を持つこと。

◆英語コミュニケーション学科

ディプロマ・ポリシー

1. 言語としての英語や英語圏の言語芸術・文化・社会等に関する専門的知識を有すると共に、さらに幅広く国内外の言語・文化・社会等についても関心を広げ理解しようとする態度を身につけている。
2. 正確な英語運用能力と豊かな感性・対話スキルを身につけ、教育・生活上の実践的な場面で、多様な言語的・文化的背景の人々と英語でのコミュニケーションを行うことができる。
3. 協動的な学びを行うために人々の多様性を尊重し、課題を発見し、情報を批判的に読み取る力と論理的・多角的な思考方法を身につけ、論文を作成することで課題解決のために自らの考えを英語や日本語で的確に表現することができる。
4. 授業でのプレゼンテーションや文芸創作活動、海外語学研修、英語地域貢献活動などを通して、英語の実践的な運用能力を身につけ、状況や課題を分析し自己の考えを適切に表現することができる。
5. 英語科教職課程においては、教員として指導するための必要かつ十分な知識と教授法および高度で総合的な英語力を身につけるとともに、実践的な指導を行う能力を持ち、英語関係の教育に携わることができる。

カリキュラム・ポリシー

1. 英語の4技能を実践的に学ぶ科目群と2つの領域科目群 ①英語、および英語圏の言語芸術・文化・社会等に関する専門的知識を学ぶ「英語文学・文化領域」の科目群 ②英語、および英語教育に関する知識と技能を習得し自分とは異なる他者・異文化への理解力と共感力を培う「異文化コミュニケーション領域」の科目群を配置する。
2. 主として1・2年次において、英語の4技能を実践的に学ぶ科目群を設置し、基礎的な英語力を養う。
3. 1年次～4年次には演習(ゼミ)を配置し、上記2の英語の4技能を実践的に学ぶ科目群で養った英語を切り口として、身近な生活あるいは国内外の言語・文化・社会・歴史・教育等の諸側面について探求し、情報を適切に取得し分析した上で自分の考えを言語化する活動を重視する。これにより、英語や英語圏にとどまらず、国内外の言語・文化・社会等にも視野を広げ関心を深める。特に3年次には自らの研究課題を見出し、4年次にはこれを深め適切な方法で研究をすすめ、指導教員の個別指導のもとでその成果を卒業論文にまとめる。
4. 4年間を通じ、学科に関連する全ての授業で双方向的な対話やディスカッション、他者と協働する活動も多く取り入れる。これにより、思考力・判断力・表現力や豊かな感性・対話スキルを養うと共に、文化・価値観の多様性に対する寛容性と受容力を培う。
5. 英語科教職課程においては、少人数のクラスにおいて模擬授業を繰り返し行い、知識に偏らない実践的な指導力を要請する。

アドミッション・ポリシー

1. 知識・技能面では、英語について基礎的な知識・技能を修得していること。
2. 思考力・表現力の面では、人と人とのコミュニケーションの重要性を認識した上で、基礎的な思考力と基礎的な表現力を有していること。
3. 主体性の面では、①人と人とのコミュニケーションの実践に積極的に取り組みたいという意欲、②英語への興味・関心と英語習得のための真摯な努力を惜しまない姿勢、③英語を通じ異文化について深く理解し考えたいという態度、の3つを有していること。

◆国際社会学科

ディプロマ・ポリシー

1. 人権や平和、文化に対して深い関心を持ち、他者への信頼と尊重をもって積極的に社会参加していくための専門的知識を身につけている。
2. 他者との協働の中で、日本語による自己表現力を高めながら、リング・フランカとしての英語をはじめとして、アジア諸国の言語(韓国語、中国語、タイ語、インドネシア語)またはヨーロッパ諸国の言語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語)での基礎的なコミュニケーション力を身につけている。
3. グローバルな諸課題を見つけ、自らの問題と捉え、また地球的視座に立って理解・分析する専門的知識を身につけたうえで、最終課題として卒業論文を完成することを通じて、自分なりの問題提起をし、考察を深める力を身につけている。
4. 課題を構造的に理解する力と現場の視点に立って課題解決に取り組む力を身につけ、国際協力や開発分野で協働的リーダーシップを発揮することができる。

カリキュラム・ポリシー

1. 様々な社会課題を正しく理解できる基礎力を養うために、1・2年次対象に配置する基礎科目の学修

を基礎に、3年次以降学生が多様な方向性で専門分野を知識習得できるように、2つの領域（「国際関係」「地域研究」）で系統的に学ぶことができる。多様な関心と問題意識に応えるべく用意された領域において、専門知識の修得に加え、実践的学びができるように語学学習と体験学習などの科目を1、2年次から取得できるように科目を配置する。

2. 他者を尊重し理解するための寛容力とコミュニケーション力をつけるために異文化理解と基本的な言語運用能力が重要であり、その観点から実践的な英語学習に加え、全学共通に開かれた多様な第二外国語科目（フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、韓国語、中国語、タイ語）から選択することができることに加えて、1年次から語学研修などで実践的に学ぶことができる。また、アジアや欧米など世界各地をフィールドとした多様な体験学習プログラムに2年次以降から参加することができる。密度の濃い現地実習と少人数教育によって、主体的に学修するための動機付けと課題発見から解決までを俯瞰的に把握する理解力を養うことができるように科目を配置する。
3. 国際社会学科の演習科目やアクティブ・ラーニング型授業では、具体的課題を軸に知識と言語と実体験を有機的に組み合わせる授業とすることで、自己肯定感（セルフイステーム）を育て、他者への信頼や尊重、積極的な社会参加を促す力を養うよう科目を配置する。また、本質的な課題解決には、ものごとの全体的な「つながり」をとらえ、それを構造的に理解することが重要であることから、卒業論文（あるいは卒業制作）を軸にした学修を重視する。最終年次に、自らの関心と問題意識を卒業論文（制作）という成果物に向けて学修を積み重ねていく一方で、多様な切り口から課題解決を探る創造力と構想力を高めることができるように自由な科目選択を可能とする科目配置とする。
4. 人権や平和に対して深い関心を育てるためには、単に知識を外在的に身につけるだけでは十分ではなく、常に現実的課題を意識して、その具体的解決に貢献する方法を模索する中で実践力を伴って育成されなければならない。そのために、3年次以降は選択した領域に沿った専門科目群を中心とした学修で知識を習得しつつも、フィールド・スタディ等の多様な体験学習プログラムにも参加できるようにし、現場や実践から離れずに学生一人ひとりが自らの関心や問題意識に照らした主体的な学修、課題の言語化、課題の社会科学的分析ができる力が身につくように科目を配置する。

アドミッション・ポリシー

1. 人間と社会に対する基本的な好奇心に加え、変化する時代の流れの中で登場する新しい人間や社会のあり方に関心をもち、自らも追求することに旺盛であること。
2. 社会的多様性に気づき、共感する感性を有すること。
3. 実践を通して社会に関与し、問題を理解しようとする姿勢を有すること。

◆社会園芸学科

ディプロマ・ポリシー

1. 人と人、人と自然との関係に関して蓄積されてきた園芸学、心理学および関連する領域における専門的知識を身につけている。
2. 園芸学、心理学に関連する研究技法を修得し、データに基づいた分析と批判的思考とを繰り返しつつ、人と人、人と自然との関係において生じるさまざまな課題を発見し、それを解決する能力を身につけている。
3. 専門的な知識や研究法、また実践的な学びを通じて、人々の生活活動における諸問題を提起し、仮説の発見・検証へと展開し、解決の糸口を見出してゆく力を身につけ、その探究・研究の成果を、適切に表現する能力を身につけている。

4. 園芸学、心理学の観点から、人と人、人と自然との関係において発生する諸問題に対し、新たな人間環境や地域社会の可能性を見出し、自ら働きかけることによって、人々の多様性を認め合う価値観を有し、他者との連携の重要性を理解しつつ、ともに活かし合える実践能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

1. 人と人、人と自然との関係についての専門的知識を身につけるために、大学・学部の共通科目による幅広い科目群の履修に加え、園芸学、心理学に関連する専門基礎科目を1年次から配置し、より目的意識を持った学びを促しつつ、2年次以降の専門科目群へと繋げ、一貫した専門的知的能力の向上を図る。
2. 園芸学、心理学という2つの異なる専門性を統合するための学科必修科目を配置し、協働する力を養うための実践的な研究の技法(扱い方)と理法(考え方)を学ぶ。さらに、事態を客観的に対象化するための適切な質的・量的データの収集、分析ができる能力を促進するために、統計的な手法による分析の考え方と扱い方を学ぶ。これにより、課題発見と問題解決能力の向上を図る。
3. 園芸学や心理学、また関連する諸学問領域の視点から、問題を発見し、その解決に向けての情報収集と分析、さらに自らの考えをとりまとめて、社会に対して提案・発信できる力を養成する。そのために、1年次に開講されるゼミ、より専門的で実践的な基盤を形成するための2年ゼミ、さらに卒業研究へと展開する3、4年ゼミをすべて必修で配置し、少人数で学生が主体的に学びあう参加型の授業を行う。また、最終課題として卒業論文の執筆を必修とする。卒業論文は口述試験を課し、ルーブリックによって評価する。
4. 専門的な基礎知識と情報分析力によって導かれた「人と人、人と自然との豊かな関係を構築する」うえでの問題提起とその解決に向けた実践力を形成するために、3年次からはより専門性に重点を置いた学科領域(「園芸文化領域」「心理領域」「環境領域」)の応用科目を配置する。また、学内はもとより学外の人々とも積極的に係わり協働して活動する実践的な演習、実習科目を配置する。これらの専門性の高い応用科目および、演習や実習での学びを通じて、我が事として社会の仕組みを理解するとともに、多様な人々との係わり(コミュニケーション)の中で、他者を、自らを活かす対人的な態度と能力を身につける。

アドミッション・ポリシー

1. 地域や家庭など身近な社会において人と人との関係が希薄になりつつある現代社会の問題に関心があり、園芸学、心理学を学ぶことでその状況を改善したいという想いがあること。
2. 他者に関心を向けて、共感的に理解できること。
3. 自らを省みて、自分の行動を適切に律することができること。

3. 恵泉女学園の歩み

1929年(昭和4年)	恵泉女学園普通部設置認可(牛込神楽坂)
1930年(// 5年)	世田谷区船橋に移転(北多摩郡千歳村船橋)
1932年(// 7年)	信和会発足(学生自治会)
1934年(// 9年)	普通部の上に高等部を新設(文科・家事科)
1935年(// 10年)	普通部に対し高等女学校の指定認可
1941年(// 16年)	河井道、平和使節として渡米 山の家開設(御殿場市)
1943年(// 18年)	高等部に園芸科増設
1945年(// 20年)	恵泉女子農芸専門学校設置認可
1946年(// 21年)	恵泉女子農芸専門学校、小平に移転
1947年(// 22年)	恵泉女子農芸専門学校名称変更→恵泉女学園専門学校となる。 農芸科および英文科設置
1950年(// 25年)	短期大学(園芸科、英文科)開学
1953年(// 28年)	河井道逝去
1962年(// 37年)	園芸科を園芸生活科と改称
1965年(// 40年)	園芸生活科、伊勢原へ移転
1970年(// 45年)	英文科を英文学科と改称
1973年(// 48年)	園芸生活科を園芸生活学科と改称
1976年(// 51年)	短期大学に専攻科(園芸学専攻)開設
1986年(// 61年)	英文学科、多摩へ移転
1987年(// 62年)	恵泉女学園大学人文学部(日本文化学科、英米文化学科)設置認可
1988年(// 63年)	大学人文学部開学(日本文化学科、英米文化学科)
1998年(平成10年)	大学人文学部国際社会文化学科開設
1999年(// 11年)	短期大学英文学科廃止
2001年(// 13年)	大学人文学部人間環境学科開設 大学院人文学研究科(国際社会文化専攻)設置 短期大学を園芸短期大学と改称
2005年(// 17年)	大学人文学部・人間社会学部開設 園芸短期大学廃止
2007年(// 19年)	大学院人文学研究科(文化共生専攻)設置 大学院人間社会学研究科(平和学専攻)設置
2009年(// 21年)	大学院平和学研究科(平和学専攻)を開設
2013年(// 25年)	大学人文学部文化学科を歴史文化学科と改称 大学人間社会学部社会園芸学科設置
2014年(// 26年)	大学人間社会学部人間環境学科を現代社会学科と改称 花と平和のミュージアム開館
2017年(// 29年)	大学人文学部(日本語日本文化学科・英語コミュニケーション学科) 大学人間社会学部(国際社会学科・社会園芸学科) 2学部4学科
2020年(令和2年)	南野キャンパス売却

4. 恵泉女学園大学の組織

4.1 大学の組織

学校法人 恵泉女学園は、恵泉女学園中学・高等学校と恵泉女学園大学・大学院を設置しています。大学院・大学には下記の学部および学科が設置されています。

人文学研究科(Graduate School of Humanities)

文化共生専攻(Division of Cultural Coexistence)

平和学研究科(Graduate School of Peace Studies)

平和学専攻(Division of Peace Studies)

人文学部(Faculty of Humanities)

日本語日本文化学科(Department of Japanese Language and Culture)

英語コミュニケーション学科(Department of English Communication)

人間社会学部(Faculty of Human and Social Studies)

国際社会学科(Department of International Social Studies)

社会園芸学科(Department of Psychology and Horticulture)

4.2 大学役職者

学 長	大日向 雅美	大学事務局長	館野 英樹
副学長	稲本 万里子、藤田 智		
大学院人文学研究科長	佐谷 眞木人		
大学院平和学研究科長	定松 文		
教務委員長	稲本 万里子		
学生委員長	楊 志輝		
就職進路委員長	藤田 智		

5. 専任教員一覧（人文学部）

		教員名	担当分野	研究室	
	学長	オオヒナタ マサミ 大日向 雅美	心理学・心理女性学		
人 文 学 部	日本語 日本文化 学科	副学長・教授	イナモト マリコ 稲本 万里子	美術史学・日本美術史	F312
		教授	カワイ アキヒロ 川井 章弘	言語学・日本語教育	F318
		教授	サヤ マキト 佐谷 眞木人	文学・日本古典文学	F308
		准教授	ナカムラ シンゴ 中村 晋吾	現代文学	F313
		准教授	ミスカミ テルミ 水上 晃実	教職課程	F211
		助教	シガ サトミ 志賀 里美	日本語教育	F315
		特任助教	ノザキ アイ 野崎 有以	文芸創作	F305
	英語 コミュニ ケーシ ョン学 科	教授	アリマ ヒロコ 有馬 弥子	文学・アメリカ文学	F204
		教授	モモイ カズマ 桃井 和馬	メディア社会学	F310
		教授	タカハマ トシユキ 高濱 俊幸	歴史学・イギリス政治史	F210
		准教授	イクタ ユウジ 生田 裕二	英語	F208
		准教授	トキワ ミホ 常葉 美穂	教育学・生涯教育	F205
		准教授	メズルール ジェルマン Mesureur, Germain	言語学・社会言語学	F206
		助教	オチ ケンタロウ 越智 健太郎	英語	F207
客員教授		イワサ レイコ 岩佐 玲子	教育学・教職課程	F215	
研究所	准教授 (大学オルガニスト)	セキモト エミコ 関本 恵美子	音楽	K棟1階	
研究所	助教 (キリスト教教育主任)	ウノ ミドリ 宇野 緑	実践神学	K棟1階	
研究所	客員教授	タニグチ ミノル 谷口 稔	日本思想	F209	
研究所	客員教授	ヒロタ ヨシヒロ 広田 叔弘	キリスト教	J304	

5. 専任教員一覧（人間社会学部）

		教員名	担当分野	研究室	
人間社会学部	国際社会学科	教授	イ ヨンチェ 李 泳采	国際関係論・人権論	J302
		教授	ウルシバタ トモヤス 漆畑 智晴	国際政治学・アメリカ政治	J216
		教授	サイトウ サユリ 齊藤 小百合	法学・憲法学	J211
		教授	サカイ マコト 坂井 誠	経済学・アメリカ経済	J305
		教授	サダマツ アヤ 定松 文	社会学・国際社会学	J308
		教授	タカハシ キヨタカ 高橋 清貴	平和構築論・国際ボランティア論	J212
		教授	ヤン ツフィ 楊 志輝	国際政治学・日本外交	J303
		教授	タカハシ ムツコ 高橋 睦子	北欧文化	J209
	社会園芸学科	教授	キタ ヤスノリ 喜田 安哲	心理学・認知科学	J310
		教授	ヒグチ ユキオ 樋口 幸男	園芸学・花卉	J318
		准教授	シノダ マリコ 篠田 真理子	環境学・環境保護論	J317
		准教授	マルハシ リョウコ 丸橋 亮子	発達心理学	J309
		准教授	ミヤウチ ヤスユキ 宮内 泰之	園芸学・庭園	J214
		助教	キクチ マキエ 菊地 牧恵	園芸学	J215
特任准教授		サワダ ミドリ 澤田 みどり	園芸療法	J316	
副学長 客員教授		フジタ サトシ 藤田 智	園芸学・野菜	J208	
研究所	客員教授	スズキ マコ 鈴木 真子	生涯就業力	J307	
研究所	客員教授	サカキハラ ノリコ 榑原 智子	家族援助論	-	
研究所	FS (FS)カ-	オシヤマ マサキ 押山 正紀	タイフィールドスタディ	J206a	

6. 非常勤教員一覧

(学部)

	教員名	担当		教員名	担当	
ア	アオキ ユミコ 青木 由美子	欧米の園芸芸術	サ	ショウガイシュウキョウリョクスイシン 生涯就業力推進センター	コーポレートマーケティング	
	アサオカ ミドリ 浅岡 みどり	英語で学ぶガーデニング		スギタ ヒサエ 杉田 尚枝	教職課程	
	アダチ トウコ 安達 瞳子	日本の園芸芸術		スギモリ ケイタ 杉守 慶太	スペイン語	
	アベ リュウイチロウ 安部 竜一郎	開発教育		ススキ ヒロコ 鈴木 裕子	英語	
	アンドウ エレナ 安藤 エレナ	英語		センダ マリアナ オアナ 千田 マリアナ オアナ	英語	
	イシハラ コウセイ 石原 綱成	キリスト教美術		タ	ダ シルバ テクスター Da Silva, Dexter	教育心理学
	イソワキ ユキエ 磯脇 幸恵	フランス語			タキグチ マサヒト 瀧口 雅仁	日本の演芸
	イノウエ クミエ 井上 久美枝	女性労働論			タチキ サトコ 立木 智子	翻訳論
	イワマツ カツラ 岩松 桂	カラーコーディネート			タナカ ヤヨイ 田中 弥生	コーパス言語学
	インプレシオン タムラ サチヨ インプレシオン (田村幸代)	ビジネスマナー			タナハシ カン 棚橋 乾	教職課程
オオツキ シンジ 大槻 慎二	編集学	タニガワ ユウイチロウ 谷川 雄一郎	中国語			
オノ ケンイチ 小野 賢一	高齢者福祉論	チェ ソンエ 崔 善愛	人権論			
カ	カトウ ミチヨ 加藤 みち代	体育・エアロビクス	テラナカ マコト 寺中 誠		人権論	
	カミヤマ ナオコ 神山 直子	教職課程	トキワ タカシ 常盤 隆		教職課程	
	カワグチ シグオ 川口 重雄	ヒロシマ・ナガサキ学	トリノウミ ナツコ 鳥海 奈都子		教職課程・漢文	
	クサカベ ナオノリ 日下部 尚徳	社会開発論	ナ	ナイトン ポール Knighton, Paul	英語	
	クリタ ナミ 栗田 奈美	認知言語学		ナガイ フミヤ 永井 文也	多民族共生論	
	ケイセンエンガイ 恵泉園芸センター	花と生活入門		ナルセ シュンイチ 成瀬 俊一	英米児童文学	
	サ	サイトウ マミ 齋藤 謁		臨床心理学	ハ	ハシモト カズヒデ 橋本 和秀
		ササキ テルヨシ 佐々木 輝美	英語及コミュニケーション基礎Ⅱ	ハン フンチョル 韓 興鉄		韓国語
サワノボリ サナエ 澤登 早苗		国際農業・農村開発論	チキョウダイガク ピースポート地球大学	ピースポート		
シマザキ ヒデカ 島崎 英香		教材とメディアリテラシー	ヒラヤマ シホカ 平山 志保香	日本語		
			ブルケール ティダーラット Brouqueyre, Thidarat	タイ語		

	教員名	担当
マ	マツウラ ヨシミツ 松浦 良亮	教職課程
	マツムラ マサハル 松村 正治	環境社会学入門
	ミチマタ ノリコ 道又 紀子	教職課程
	ミヤマエ カズヨ 宮前 和代	英語学
	ムゴ アイリーン ワンディア Mugo, Irene Wandia	英語
ヤ	ヤノ マチコ 矢野 真知子	英語
	ヤマ ヒロミ 山 浩美	花壇ボランティア論
	ヤマウチ ナミコ 山内 奈美子	世界遺産学
	ヤマダ ウサコ 山田 うさこ	マンガ・アニメ文化論
	ヨシダ サオリ 吉田 沙織	日本語
	ヨネツ トクヤ 米津 篤八	韓国語
ワ	ワークアカデミー ハリタ マイネ ワークアカデミー（張田麻衣音）	キャリア開発
	ワダ メイ 和田 芽衣	女性と健康

(大学院)

	教員名	担当
カ	クリタ ナミ 栗田 奈美	日本語教育研究
サ	サワノボリ サナエ 澤登 早苗	平和学特殊研究
タ	タワ マキコ 田和 真紀子	日本語特論Ⅱ

7. 恵泉会

恵泉会

恵泉女学園恵泉会は、中学から大学までの学生生徒の保護者・保証人と全教職員をもって組織する会です。恵泉女学園の創立時に創立者・河井道を支えた「小さき弟子の群」の精神に学びながら、学園の成長の過程で成立したもので、保護者・保証人と教職員が学生生徒の教育を通して出会う場です。

また、恵泉会は、保護者・保証人自身も建学の精神を共に学び、なによりも恵泉教育を理解しつつ、その充実のためにすすんで協力することを目指しています。

更に、その奉仕を通して教育のための経済的な支援の一端を担うものでもあります。恵泉デーを中心とした学園全体の行事には積極的に参加し、日頃は聖書研究、講演会、文化活動、奉仕活動などを通して学びと交わりを深めています。

お問合せ先：恵泉女学園恵泉会

Tel : 03-3303-2111 Fax : 03-3303-2323

恵泉会主催の主な行事は、順次「恵泉会からのお知らせ」ページでご案内いたします。

(公式ホームページ https://keisenjogakuen.jp/keisen_kai/)

行事への申込方法は、以下のとおりです。

大学：大学事務局・学生課に申し込んで下さい。

Tel : 042-376-8213 Fax : 042-376-8218

恵泉会友の会

「恵泉会友の会」は、元恵泉会会員の有志の集まりです。つまり、娘たちが恵泉の卒業生となった保護者・保証人の有志で構成されている会です。元恵泉会会員ですから、保護者・保証人だけでなく退職された先生や職員の方々ももちろん加わっています。

この会の趣旨は、河井道先生以来の「恵泉のこころ」に触れた者たちが、恵泉を愛する心の交わりをさらに続けることによって、それが学園を少しでも支える力となるように、ということです。

現在、会員数は約630名、会費は年額1,000円で活動しています。入会は卒業式当日に直接申込みできます。また郵送の申込みはいつでも受け付けています。

毎年5月に年会を開催し、このとき講演会やコンサートなどもあります。このほか本会の趣旨にそった様々な活動をおこなっていますが、年間の主な行事は次のとおりです。

■聖書研究会

毎月第2火曜日、講師をとおして恵泉のこころの基盤である聖書を学ぶことと合わせて、お互い自由な懇談の中からも多くの示唆が得られます。

■ニュース発行

年2回、編集の担当者は特に遠い地域の会員との交流を深めるために苦心しています。

■バス旅行

年1回、夏か秋、少し遠い地域の方も参加できる親睦の一日です。長野県茅野市にある恵泉女学園蓼科ガーデンは何回でも訪れたい人気の場所です。

■クリスマス会

12月初旬、クリスマス礼拝の後、コンサート等楽しいひとときを過ごします。

■恵泉デー参加

学園のために本会も総力を挙げて参加させて頂き、バザーの純益をお献げします。このために手芸品講習会や毎月第3火曜日にはお仕事もあります。

お問い合わせ先：恵泉女学園本部恵泉会友の会

Tel：03-3303-2111 Fax：03-3303-2323

8. 同窓会

恵泉女学園同窓会は1934年(昭和9年)に会員10名で発足し、2022年4月現在の会員数は36,430名になりました。恵泉女学園の卒業生で構成され、卒業と同時に会員となり、恵泉教育の精神に基づき、世代を超えての交流と互いの成長をはかり、母校の発展に協力します。2014年度には創立80周年を迎えました。

【主な活動】

- ・親睦と研修(総会、ホームカミングデー、クリスマス会他)
- ・会報誌『ランターン』の編集・発行、学園広報誌『恵泉』の発送
- ・部会、支部会、「有志グループの会」の活動
- ・「K.S.ファンド」を通しての在学学生・同窓生支援
- ・「恵泉フェロシッパ」への協力

【会費】

卒業時に同窓会費を納め終身会員となります。その後は、会員が年ごとに納める同窓会維持費で維持・運営されています。

【事務局】

156-0055 東京都世田谷区船橋5-8-1

T E L : 03-3306-1704

F A X : 03-3306-1705

E-mail : dousokai@keisen.ac.jp

U R L : <http://www.keisen-dousokai.jp/>

(開室日：月・水・金 10：00～16：30)